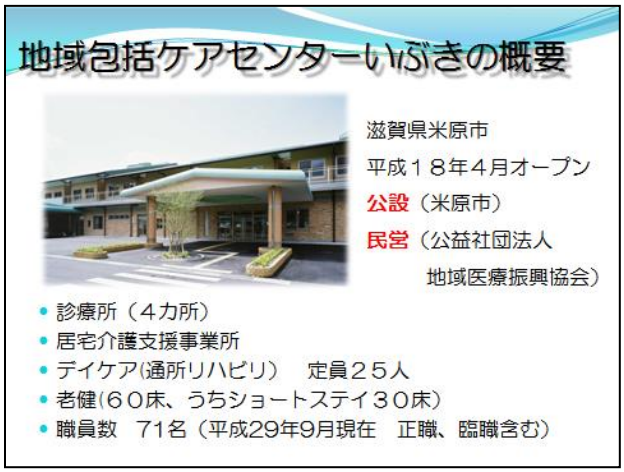
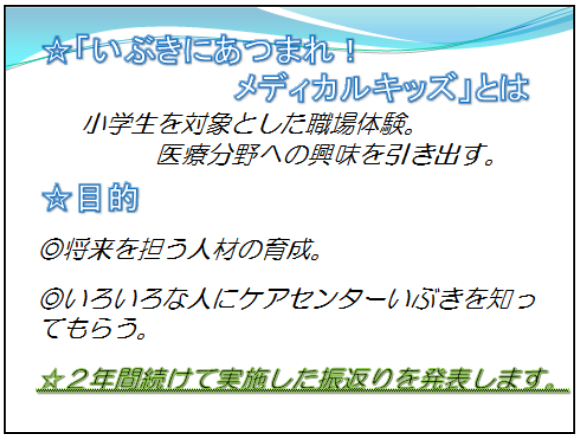
演題123	「いぶきに集まれメディカルキッズ」を通しての考察 ～小学生サマーワーク体験を開催して～
	発　表　者　草野　洸太（滋賀県　地域包括ケアセンターいぶき） 共同研究者　畑野　秀樹、臼井　恒仁、水上　幸子、仲谷　良徳

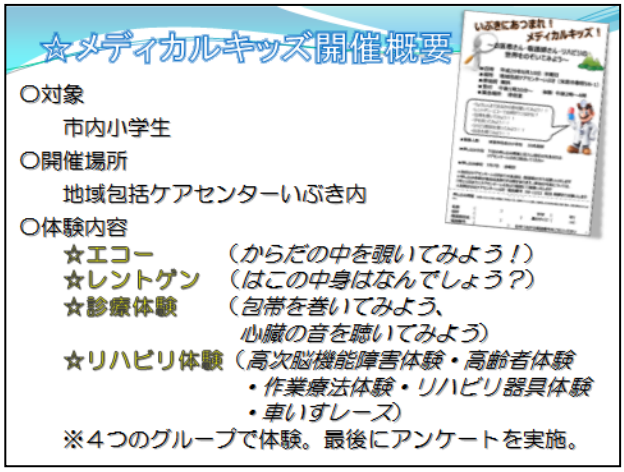


地域包括ケアセンターいぶきは、滋賀県米原市にあり、診療所と介護老人保健施設を設置した複合施設です。主なサービスは診療所・居宅介護支援事業所・通所リハビリ・老健で、現在７１名体制で運営しています。

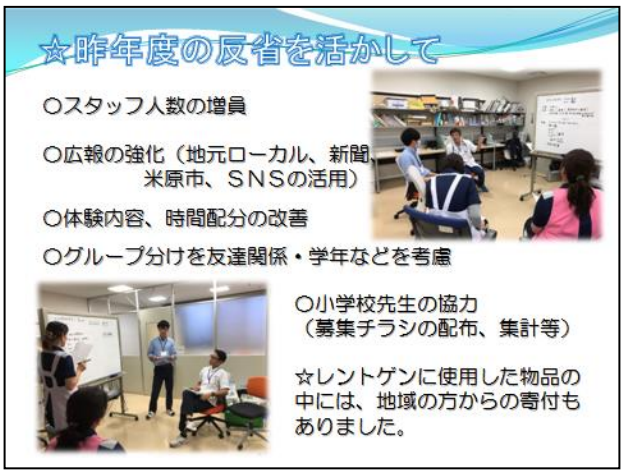


小さなころから医療分野へ興味を持たせると将来につながるのではないかと、小学生を対象にした職場体験「いぶきに集まれメディカルキッズ」を開催しました。

主な目的は「将来を担う人材の育成」と「いろいろな人にケアセンターいぶきを知ってもらう」です。昨年、今年と開催した振返りを発表します。



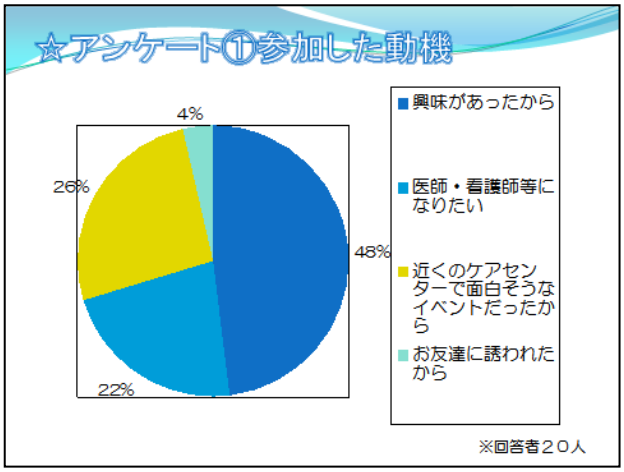
メディカルキッズの開催概要。市内小学生を対象とし、ケアセンターいぶきで体験をしてもらいました。内容は、エコー体験・レントゲン体験、診療体験として、包帯巻き・聴診器体験、そしてリハビリ体験を４つのグループに分けて体験をしてもらいました。



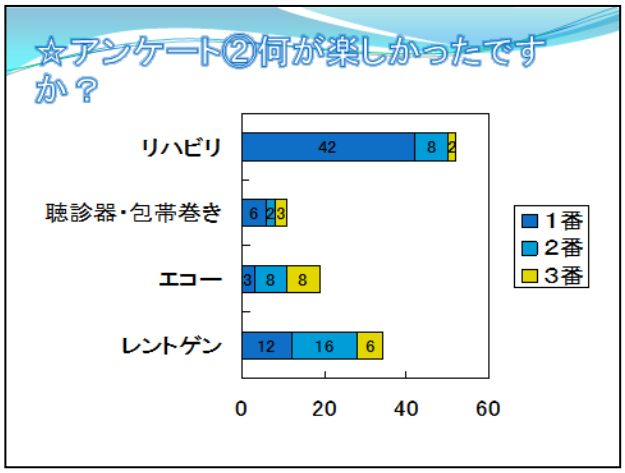
昨年度の反省を活かして、スタッフ人数を多くしました。また、広報があまりできていなかったので、米原市役所や地元ローカル、ＳＮＳ（Facebook、ブログ）等で広報の強化を図りました。昨年は体験内容がグループによって体験時間に差があり、終了時間を超えてしまったので、時間配分を改善し、終了時間を超えないようにしました。参加者の募集については小学校の先生にチラシの配布、集計をご協力いただきました。

診療所体験の写真です。エコー体験では実際に体の中がどのように映るか、映らない部分はどのような構造をしているかを体験。レントゲン体験では、箱にいろいろなものを入れ、実際に撮影し、何が入っていたか、どういうものが写りやすいかを体験。また包帯巻き・聴診器体験もしていただきました。

リハビリ体験の写真です。座学でリハビリテーションとは何かを学び、高次脳機能障害体験・作業療法体験・車いすレース・リハビリ器具体験・高齢者体験をしていただきました。どの体験も真剣に、そして楽しそうに体験していただきました。

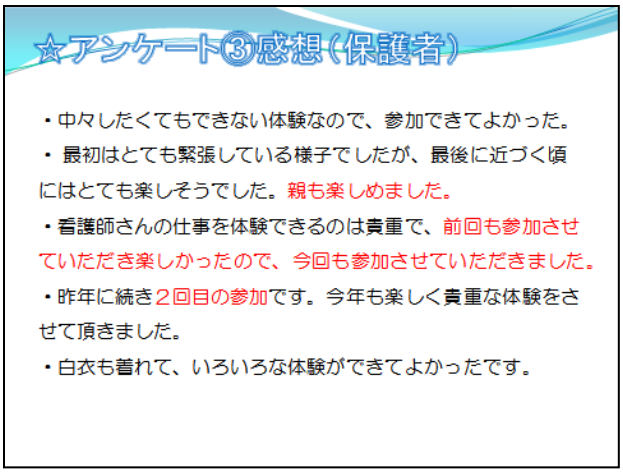


体験終了時にアンケートにご協力いただき、グラフにしました。２０人から回答をいただきました。参加した動機の約半数が「興味があったから」で、医師・看護師になりたいという参加者も２０％ありました。

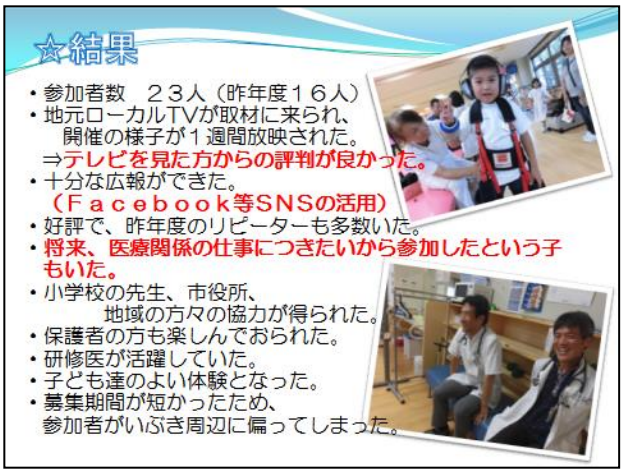


「何が楽しかったですか？」という質問では、楽しかった順に１番２番３番を記入していただき、１番は３点、２番は２点、３番は１点と点数化しました。１番点数が高かったのがリハビリでした。リハビリではいろいろな体験が多かったのと、珍しい機械などが興味を沸かせたようです。

その他の体験も、普段はなかなか体験ができないものが興味を沸かせたのではないでしょうか。



保護者の方にも自由項目枠を設け、感想を書いていただきました。感想をみると、昨年度のリピーターの方も多数いたことがわかったほか、親も楽しめたという感想もありました。保護者の方も、参加できてよかったという感想を持っていただいたようです。



結果として、今回の参加者数は２３人で前年よりも７人増えていました。地元ローカルテレビさんが取材に来られ、開催の様子が地元ローカルで１週間放映され、それを見た地域の方からの評判が大変良かったです。またＳＮＳを使った広報も、たくさんの方に見て頂けることがわかりました。

将来、医療関係の仕事につきたいから参加したという子もおり、目的通りの参加者もいたことがわかりました。募集期間が短かったため、参加者がいぶき周辺に偏ってしまった（伊吹地域の小学校にしか配布できなかった）ことは、考えどころです。

この体験学習は、将来を担う人材育成の一端となると確信しています。開催を継続することにより、ケアセンターを知ってもらえ、身近な物となれます。また、リピーターが増えることで、参加者の成長をみることができます。この体験をきっかけに、医療関係に就職、ケアセン

ターいぶきに就職する子がいると大成功ではないでしょうか。参加者の人数が増えるとスタッフの負担が大きくなるのと、抽選になってしまうため、友達同士での参加が難しくなりそうなので、どのように対策するかが今後の課題です。